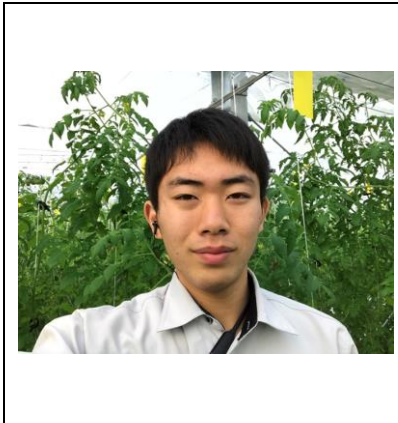


広島県立西条農業高等学校卒業 安富明生さん(広島アグリネットファーム)



安富 明生 (やすとみ あきお) さんの紹介

東広島市出身。非農家ではあるが、中学校時代の総合的な学習の時間で植物栽培に携わった経験や、2人の兄も西条農業高等学校に進学したこともあり、西条農業高等学校・園芸科で学習したいと考えようになりました。在学時代は主に草花を専攻し、「環境不適地における高品質農産物栽培と検証試験」という課題研究に取り組み、大鉢シクラメンの栽培・管理に取り組みました。高校で学んだ知識や技術を現場で活かしてみたいと考えていたところ、地元企業である「株式会社フレスタ」が自社農場を立ち上げる話を聞き、インターンを経て就職就農しました。

現在は、三原市佐木島に設立された農場で養液栽培を用いて高糖度トマトの生産に取り組んでいます。

○安富明生さんの就農までの道

農業高校
(西条農業高等学校)

インターン
(株式会社フレスタ)

就農
(広島アグリネットファーム)

農業高校に入学しようと思ったキッカケは？ 農業を仕事にしようと思ったきっかけは？

中学校時代に学んだ総合的な学習の時間で、野菜の播種から栽培管理の実際に取り組んだことで、将来、食料生産や地産地消を自らの手ですすめていきたいと考えようになりました。また、2人の兄も近隣の西条農業高等学校に進学していたこともきっかけの一つです。園芸科では、慣行農業にとらわれない有機質資材を用いた高品質農産物の栽培に取り組みながら、2年次に参加したインターンシップでは、地元にあるトマト生産団地で研修を積み、自分が収穫したものが商品となり、市場に出回ることに自信を持ち、食料生産を目的とした農場で働いてみたいという思いが強くなりました。

高校で学んだことは？

園芸に関する基本的な内容から最先端の専門的な知識や技術に加えて、経営に係わる会計や関係法規まで、植物栽培に係わる一般的な学習から科学的な実証実験について取り組んできました。例えば、科目「農業と環境」では、実習を交えながら植物栽培に必要なとされる基礎的な知識や技術の習得、科目「土壤微生物バイオテクノロジー」では土壌中の細菌と糸状菌の関係について希釈平板法を用いての実証など様々なことを学びました。

また、高校がある西条の地は盆地であり、夏場の暑さ、冬場の寒さは極めて厳しく、実習を行うにも体力が必要でした。早朝や放課後の実習を通し、自然環境にも適応できる実践力を養うことができました。

今の仕事の中でやりがいを感じることは？ 農業を仕事にするのに必要なことは？

広島県を中心にスーパーマーケットを展開する「株式会社フレスタ」が、自社ブランド品(PB品)の生産に取り組む目的で設立されたのが今の会社です。農場運営の立ち上げに参加できたことや、高校や先進農家で培った研修の成果を発揮し、農場運営の「核」としての自覚を持ち取り組んでいます。また、店頭に並んでいるトマトをお客様に手にとっていただけることや販売店から需要の声を聞くとときが一番やりがいを感じる場面です。



就農先の紹介

株式会社広島アグリネットファームは平成28年8月に設立された新しい会社です。フレスタホールディングスグループのグループ企業として、三原市沖の佐木島に養液栽培による高度環境制御栽培システムを導入し、高糖度トマトの生産・加工・販売を中心とした農業事業、地域生産物の流通支援事業を行っています。生産されたトマトについては県内外のフレスタ店舗及び関連会社で販売・加工されています。将来的に農場を中心とした体験・交流型ファームの運営を手がけ、地元三原市と地域連携を進めていきます。